

## たけびし (コード 7510・大証 2部)

業績推移(連結) (予想数値は会社発表分。配当性向は連結ベース。単位・百万円、%、円)

決算期	売上高		経常利益		一株当たり		配当性向	売上高 経常利益率
		伸び率		伸び率	純利益	配当		
08.3	70,168	+2.5	2,084	+2.9	78.8	14.0	17.8	3.0
09.3	61,114	-12.9	1,607	-22.9	51.9	16.0	30.8	2.6
10.3(予)	47,000	-23.1	470	-70.8	17.0	10.0	58.9	1.0

## 幅広い産業分野と大手優良企業中心のユーザー構成が強み

特色... 京都・滋賀を主力地盤(09年3月期の同地区の売上構成比率47.2%)に、産業用電機・電子機器などを幅広く取り扱う、三菱電機の総合代理店を主とした“技術商社”。単に製品を提供するだけでなく、技術ノウハウ、システムデザイン、ソフト開発を手がける“技術商社”を志向。電気機器をはじめ、精密、機械、輸送、建設、電力、公共、商社など、幅広い産業分野にわたる展開力と、特色ある大手優良企業を中心とするユーザー構成は同社の強み。

## 09年3月期は2ケタ減収減益に

減収減益に... 09年3月期は、上半期(08年4~9月)については自動車・液晶製造装置関連を中心に設備投資向け需要が好調に推移したものの、08年10月以降、月を追うごとに期初時点での想定を大きく上回る急激な設備投資抑制に見舞われ、特に主力のFA・デバイス事業の需要が大幅に減退。売上高は08年3月期比12.9%減、経常利益が同22.9%減と2ケタの減収減益になった。事業別売上は、FA・デバイス事業:419億8,000万円(08年3月期比12.4%減)、社会・情報通信事業:191億3,400万円(同14.0%減)。FA・デバイス事業では、半導体・デバイス部門が164億8,600万円(同18.3%減)に落ち込んだほか、産業機器システム部門が254億9,300万円(同8.1%減)と軟調。また、社会・情報通信事業では、社会インフラ部門が110億7,700万円(同5.0%減)、情報通信部門も80億5,700万円(同23.8%減)と、全部門で売上を落とした。

## 10年3月期も上半期は厳しい状況に

売上高、経常利益とも急減予想... 10年3月期の連結業績は、売上高が09年3月期比23.1%減、経常利益は同70.8%減と、前期にも増して厳しい見通しとなっている。特に上半期(09年4~9月)は、売上高200億円(前年同期比41.3%減)、経常利益3,000万円(同97.5%減)と、会社側では非常に厳しい状況を予想。事業別の売上予想は、FA・デバイス事業:309億円(09年3月期比26.4%減)、社会・情報通信事業:161億円(同15.9%減)。FA・デバイス事業のうち、産業機器システム部門が189億円(同25.9%減)、半導体・デバイス部門は120億円(同27.2%減)の見込み。社会・情報通信事業では、社会インフラ部門が94億3,000万円(同14.9%減)、情報通信部門は66億7,000万円(同17.2%減)へ。なお、会社側ではNEWビジネスの創造として、産業機器分野では機械・装置システムビジネスにおける一括受注、半導体・デバイス分野では海外パートナー商品開拓、社会・情報通信分野では環境・省エネ関連ビジネスの拡大など、対策に注力する方針。年間配当は6円減配し10円を予定している。

本レポートは、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。